

【考察】地区座談会実施にみる防府市の住民相互の助け合いについて

防府市地域福祉推進協議会会長 山口県立大学 社会福祉学部 教授 草平 武志

令和元年度に防府市の牟礼、勝間、向島、西浦の4地区で行った地区座談会では、参加した住民の皆さんが予め地域ごとに以下の①～⑪の内、選択した2つ地域課題について、地域の現況と今後の活動に向けての協議を行った。（そのうち、⑦、⑧については選択した地区はなかった）

- ① 買い物に行くことに困っている人
- ② 日中一人で生活している人
- ③ 引きこもりの子ども（成人、中年）を抱えている高齢者（8050問題）
- ④ 徘徊している高齢者、万引きの絶えない認知症高齢者
- ⑤ 早朝、夜間ほっておかれている子ども（子どもの貧困、親の孤立）
- ⑥ 介護が必要でも放置されている高齢者
- ⑦ 増える外国人労働者、ゴミ出しなどのトラブル
- ⑧ 夏になると国道のトンネルで生活している路上生活者、車上生活者
- ⑨ 商店、医院の後継者がなく、閉店・医院の閉鎖の増加
- ⑩ 災害時の避難行動要支援者の避難行動支援についての計画はできたが、実行性に乏しい。
- ⑪ その他



地域社会に諸々の生活上の困りごと等の地域課題があるが、それぞれ、地域課題に対して住民は、自らの工夫で（自助）、住民相互の助け合い（共助もしくは互助）、公的な制度の利用など様々な対応をしていることが分かった。

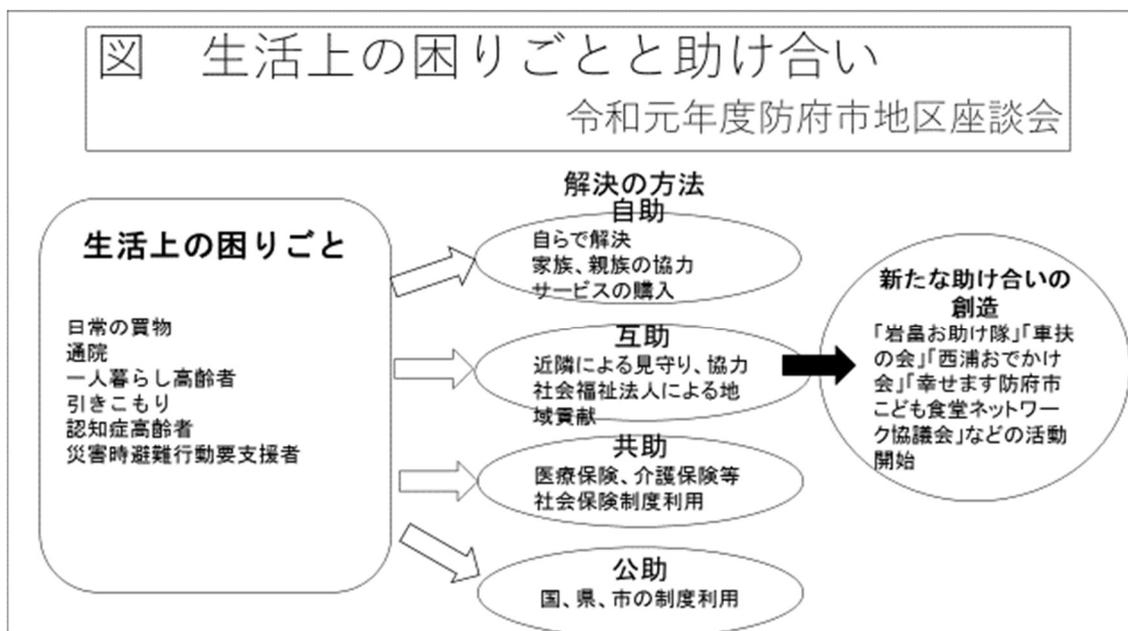
例えば、買物の不便さを補う方法として、住民自身が工夫をする方法として、タクシー利用、スーパーの移動販売車やスーパーやコンビニ、生協による宅配の利用、あるいは他所に住んでいる子ども（別居子）による買物支援などがあげられた。

住民相互の助け合いなど互助の例として、隣近所による買物時の自家用車への同乗があげられるが、牟礼地区の大内自治会では、「車扶の会（高齢者の通院移送ボランティア

「ア」通院した帰りに商店に寄ってもらうなど、住民参加型助け合いサービスの特徴を生かし、住民の生活上のニーズに柔軟に対応している。西浦地区では、社会福祉サービス事業所の協力を得て、施設所有の送迎車両を活用し、周辺自治会の住民のために、買物の移動の支援が行われている事例があった。（月2回西浦おでかけ会）

共助の例として、介護保険制度による訪問介護員（ホームヘルパー）による買物支援などがあげられる。

公助の例として、防府市高齢者等バス・タクシー運賃助成制度や国制度による地方バス路線維持費補助制度などがあげられる。



地区座談会の議論を通じて判明したことは、住民の生活上の困りごとに関して、介護予防・日常生活支援総合事業等市民活動の支援策により地域住民が協力して課題に取り組む新たな助け合いが徐々に開発されていることである。

そのほか、市内に本社を置くスーパー(株)丸久では、市内のこども食堂や、ふれあいいきいきサロン等の福祉活動に総菜を提供しており、市社会福祉協議会の呼びかけで、市内の複数のこども食堂の協力のために「幸せます防府市こども食堂ネットワーク協議会」が結成されるなど地域の住民相互の助け合いの輪（互助）が伸展していることも特筆できる。

図 住民相互の助け合い

令和元年度防府市地区座談会

情緒的サポート（共感、傾聴、受容など）

近隣、親族、民生委員、福祉員などによる声掛け、安否確認

手段的サポート（金銭・物資など物質的なサポート、手伝いなど）

親族による支援、公的サービス、商業サービス
社会福祉法人や企業による地域貢献活動（買物送迎、資金援助、ボランティア活動など）
近隣、親族、民生委員、福祉員などによる簡単な手助け

住民相互の助け合いは、「情緒的なサポート」のみならず、簡単な家事支援など「手段的サポート」にまで広がっている。加えて、社会福祉法人や企業により地域貢献活動にも波及してきている。

互助の内容を見ていくとこれまで、近隣、親族、民生委員、福祉員などによる声掛け、安否確認など情緒的サポートが中心であったが、金銭・物資など物質的なサポート、手伝いなどの手段的サポートが組織的に展開されつつあることが地区座談会を通じて判明した。

今後の課題として、住民相互による手段的サポートを組織的に展開する支援が必要といえる。